



蒲小だより

未来を拓く児童の育成



思い出いっぱい修学旅行

文責 教頭 的場秀騎
校長 山本智文

9月26日(木)～27日(金)に蒲刈小と豊小児童の5・6年生(それぞれ12名・10名)合計22名で、山口県へ1泊2日の修学旅行に行ってきました。両日とも天候に恵まれ、予定のコースを安全に見学してくることができました。普段とは異なる場所で、異なる環境にふれ、様々な「人、もの、こと」と出会い、多くのことを学ぶ機会となりました。バスに酔う児童もおらず、よく食べてよく寝て、マナー良く過ごすことができました。多くの人に支えられて安心してすごすごできた2日間は、子ども達にとって忘れることのない素晴らしい思い出になると思います。

楽しみにしていたイルカショー



蒲刈小学校を出発して4時間、最初の見学地、下関市立水族館「海響館」に到着しました。館内での順路確認した後、少し早い昼食をとりました。朝早く登校・出発したためか、完食した子どもが多かったです。

昼食後はいよいよ見学です。はじめは「イルカショー」です。イルカとアザラシが、海に落ちているごみを無くす活動に取り組んでいるというストーリーです。イルカのジャンプやアザラシのコミカルな演技を見せる内容でした。子ども達は夢中になって、ショーに見入っていました。

イルカショーの次は、館内を班ごとに分かれての見学です。海の近くに住んでいるとはいえ、瀬戸内では見られない生き物や、海中で活動する生き物の様子を目の前で観察できる機会を楽しむことができました。

見学後は、お土産の買い物です。海響館でしか手に入れないものを、お金の使い道を考えながら、家族や自分のために悩みに悩んで選ぶ表情が印象的でした。家族を思う、子ども達の「相手を意識した姿」に成長を感じることができ、心がほんわか温くなったのは私だけではないでしょう。



ペンギンを見学した後、つい…



休憩中のアザラシ



関門海峡を背景に



水槽のペンギンを観察



買い物をした後、海響館とお別れ

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

約1時間、バス移動の後、国指定史跡土井ヶ浜に着きました。響灘に面する土井ヶ浜海岸の砂丘上に約300体の人骨が出土した場所です。埋葬されていた人骨や埋葬品から考えられる弥生人の生活やいろいろな謎について、学芸員さんからの話を真剣に聞いていた子ども達でした。



角島…角島大橋～角島灯台

映画やテレビ番組、CM等でもたびたび紹介される角島。角島では白い砂浜とエメラルドグリーンの海が広がり、日本海とは思えない素晴らしい光景を見ることができました。本州と角島を結ぶ角島大橋をバスで進んでいる時には、子ども達から「すごーい。」「きれー。」という声が上がりました。角島灯台からは日本海の水平線を見ることができました。瀬戸内海とは異なる景色に子ども達は一同に感動していました。



西長門リゾートホテル

夕方にホテルへ到着し、荷物を片付けた後、夕食の時間となりました。海の夕陽が差し込む素敵な場所で食べました。翌朝、ホテルのプライベートビーチを散策しました。少し眠そうな子どももいましたが、素敵な景色にやがて清々しい表情に変わっていきました。この後、



きれいな夕陽を背に代表挨拶



ホテルプライベートビーチで朝の散歩

前日の夕食と同じレストランで朝食をとりました。いよいよ2日目のスタートです！

萩焼、絵付け体験！ 真剣そのもの



この企画も楽しみにしていた絵付け体験。萩焼窯元の方から、絵付け体験の方法について説明を受けた後、それぞれが事前に考えていた萩焼のデザインを基に慎重に描いていきました。約1か月後には、焼き上がった作品が学校に届きます。とても楽しみです。

自然の偉大さに感動!! 秋吉台…秋芳洞



秋吉台にて



秋芳洞（入口付近）にて



秋芳洞（黄金柱）にて

昼前、秋吉台に到着しました。空を見上げると少し秋らしい青空に気分もよくなりました。少しずつ班別行動ができるようになってきました。秋芳洞へ入る前に、昼食を食べ、最後の買い物タイムです。子どもたちは、残金を確かめながら、上手に買い物をしていました。秋芳洞では、洞内での約束を守り、安全に見学することができました。何千年、何万年の時を重ねて洞窟ができていったという説明に、驚きとともに自然の偉大さ、神秘の世界を感じていたように思います。

今回の修学旅行では、保護者連絡メール「すぐーる」を使って、リアルタイムに旅行先の様子を画像で送りました。保護者から、「『すぐーる』で送られてくる写真で様子がよく分かった」という声をいただきました。今回から添付ファイルの容量（サイズ）が増えたことで、より鮮明な画像を送れるようになりました。今後も、効果的に活用していきたいと思います。「知ることで安心が生まれる」ことがありますね。



到着式、家族に感謝

大浦区の祭りの学びを通して！

9月6日（金）に地域資源（教材）を活用して、5・6年生が総合的な学習の時間に「蒲刈町大浦区の祭りを知ろう」と題して、学習に取り組みました。大浦区長の梶本良金様をお招きして、「大浦区の祭り」について学習しました。子どもたちは事前に蒲刈町4地区の祭りについて調べていましたが、今回は実際に祭りに直接かかわっている方から、学ぶ機会をいただきました。

地域の方（「人」）から、地域の「もの」（今回は祭りの様子の写真や道具）や、地域の「こと」（祭りや祭りの笛の音等）を学ぶことで、子ども達は地域について知ることになり、親しみを感じるようになります。学校外で再会した時には、祭りについて教えてくれた方だと気づくことで、地域への安心感も生まれます。やがて、地域への親しみや安心感は、地域の一員としての所属感へと変容し、地域への愛着へと育っていきます。地域とつながり、地域の「人・もの・こと」から学ぶことは意義深く、価値ある教育活動だと考えます。今後とも校区である両町の歴史や伝統、文化を大切な教育資源として活用して参ります。



英語で、レッツ インタビュー！

10月6日（日）に「下蒲刈島に寄港する海外（フランス）豪華クルーズ船」の乗客に対して、同島の歴史（朝鮮通信使）や両蒲刈町の魅力（塩づくり）を伝えようと、5・6年生が1学期から企画し、準備を重ねてきました。9月3日（火）には、地域おこし協力隊員の小島亮さんと阿部宏太さんをお招きし、子どもたちが考えた紹介文（英文）の添削及び発音の練習等、熱心にご指導いただきました。この様子は、中国新聞（9月14日 呉・東広島版）に掲載されました。本校としましては、昨年度から、子どもたちの「**自己表現能力**」の向上を最重要課題とし、様々な取組を展開してまいりましたが、今回の企画も、その思いを反映した取組として位置付けております。他の小学校では、なかなか取り組むことのできない企画を、本校では、昨年度から意欲的に展開してまいりました。「**機会が子どもたちの自己肯定感を高める**」「**経験が子どもたちの自信の源となる**」等を意識し、全教職員でアンテナを張り巡らせ、子どもたちの資質・能力の向上に向け尽力しているところです。校長としましては、今後も「失敗を恐れず、チャレンジすることを子どもたちと愉しみ、共に学び合いながら成長していきたい」と考えています。



ちなみに、11月9日（土）は、週休日ですが、課業日とし、下蒲刈で開催される「秋の茶会（上田宗箇流）」に全校で参加します。詳しい日程等につきましては、後日、子どもを通して配付させていただきます。何卒、ご理解・ご協力をお願いいたします。

👉この2つの企画には、「中国新聞社」、「KURE：BAN」の取材が入ります。

3・4年生 授業研究にチャレンジ！

10月3日（木）に、蒲刈中学校区を代表して、本校の3・4年生が「算数科の授業研究」にチャレンジしました。私の広島大学附属東雲小学校時代の担当指導教諭であられた、現在、広島大学附属東雲小・中学校長、広島大学大学院教授 松浦武人先生を講師としてお招きし、小中学校の全教職員が研修にのぞみました。昨今、全国の学校現場において、「**通常学級においても複式学級の指導方法を積極的に取り入れるべきだ！**」という気運が高まってきています。これについては、私も同感です。**“真の学力”**をつけるためには、今までのような通常学級における一斉指導では、取り残される子どもたちがどうしても出てきてしまいます。それを打破するためには、子どもたち一人一人が「学習リーダー」となり、**自分たちの力で「学び」を展開していく**。指導者は、「どこで出るか、どこまで出ないか（教師の出場）」を見極め、**“子どもたちの学びの伴走者”**として常に寄り添い、「子どもたちの学びを評価し、価値づけ、さらなる高みをめざしていく」という営みを丁寧に展開していくことが求められていると考えています。※詳しくは、「臨時号」にて。

